

昭和61年度 特定植物群落調査について

和田 清

第3回自然環境保全基礎調査(環境庁自然保護局)が昨年度に引き続いて行われた。前回同様に、5月の総会で受諾が決った後、会長から今年度の調査員に次の会員の方々に委嘱された(敬称略)。

楯 誠治, 土田 勝義, 馬場多久男, 林 一六, 松田 行雄, 渡辺 隆一, 和田 清(調査責任者),

1. 61年度調査の目的と概要

A. 生育状況調査

特定植物群落の生育地及び生育状況の現況を把握し、併せて自然環境保全施策の基礎となるバックデータを蓄積する目的で、既に選定された特定植物群落の中から群落の類型ごとに代表的、典型的な群落を抽出し、標本的な群落を対象として、生育地及び生育状況の現況を調査する(調査要項原文のまま)。

B. 追加調査

特定植物群落選定基準(前号27頁)に該当する群落を、昨年度に続いて追加調査する。ただし、長野県では前者(A)に主力を入れる。

2. 生育状況調査について

(1) 調査地の選定と調査分担

長野県は10箇所(群落)程度。シラビソかオオシラビソ林とブナ林を含み、他に特徴ある群落をとうことから以下のような調査地を選んだ。

- 1) 白馬岳の高山植物群落(調査分担者・土田)
- 2) 木曽山脈の高山植物群落(馬場)
- 3) 志賀高原のオオシラビソ林(渡辺)
- 4) 北沢峠のシラビソ林(馬場)
- 5) カヤノ平のブナ林(渡辺)
- 6) 奥掘花のブナ林(和田)
- 7) 居谷里湿原の草本群落(松田)
- 8) 美ヶ原の草本群落(土田)
- 9) 菅平のハンノキ林(林)
- 10) 赤沢のヒノキ林(楯)

(2) 調査内容と方法

この調査は各群落の中にコドラート(方形定置枠)を置き、今後約5年毎に変化の状況を調べることになっている。

〔樹高8m以上の高木林〕

調査地3)~6), 9), 10)については、20×20mのコドラートを設定し、高さ8m以上の樹木を対象に毎木調査(種名・樹木の位置・樹高・胸高直径・健全度)と樹冠投影図を作成した。また、一般植生

調査と定点写真撮影も行っている。

〔草原・湿原の群落〕

調査地1), 2)の高山草原は2×2m, 7)の湿原は1×1m, 8)のヒゲノガリヤス草原は5×5mの枠を置き、一般植生調査と定点写真の撮影を行った。

(3) 調査結果

群落の消長を知るために今後も継続して調査される。従って、群落内の同一地点が必要となるので、詳細な記録のほかポールなどの目印を置いた。労力的にも大変な調査であったが、各群落から貴重なデータが得られた。調査資料の一部を示せば下図のようである。

3. 追加群落

1986年度分の追加群落は只今まとめているので変更も考えられるが、前号に準じて書き出せば次のようである。

番号	件 名	選定基準
82	飯山瑞穂のキタゴヨウ林	B・G
83	八ヶ岳山麓のサラサドウダン群落	H
84	武水別神社のケヤキ林	E・F
85	長倉のハナヒョウタンボク群落	B・G
86	菅平のツキヌキソウ群落	B・G
87	高鳥谷神社のアカマツ林	E・F
88	高遠のコヒガンザクラ樹林	E・F
89	小野・矢彦神社の社叢	E・F
90	風越山のベニマンサク群落	C
91	風越山のブナ林	A・E

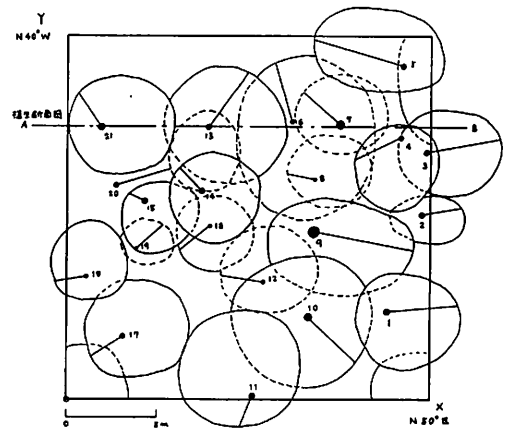


図 シラビソ林樹冠投影(馬場他1986原図)